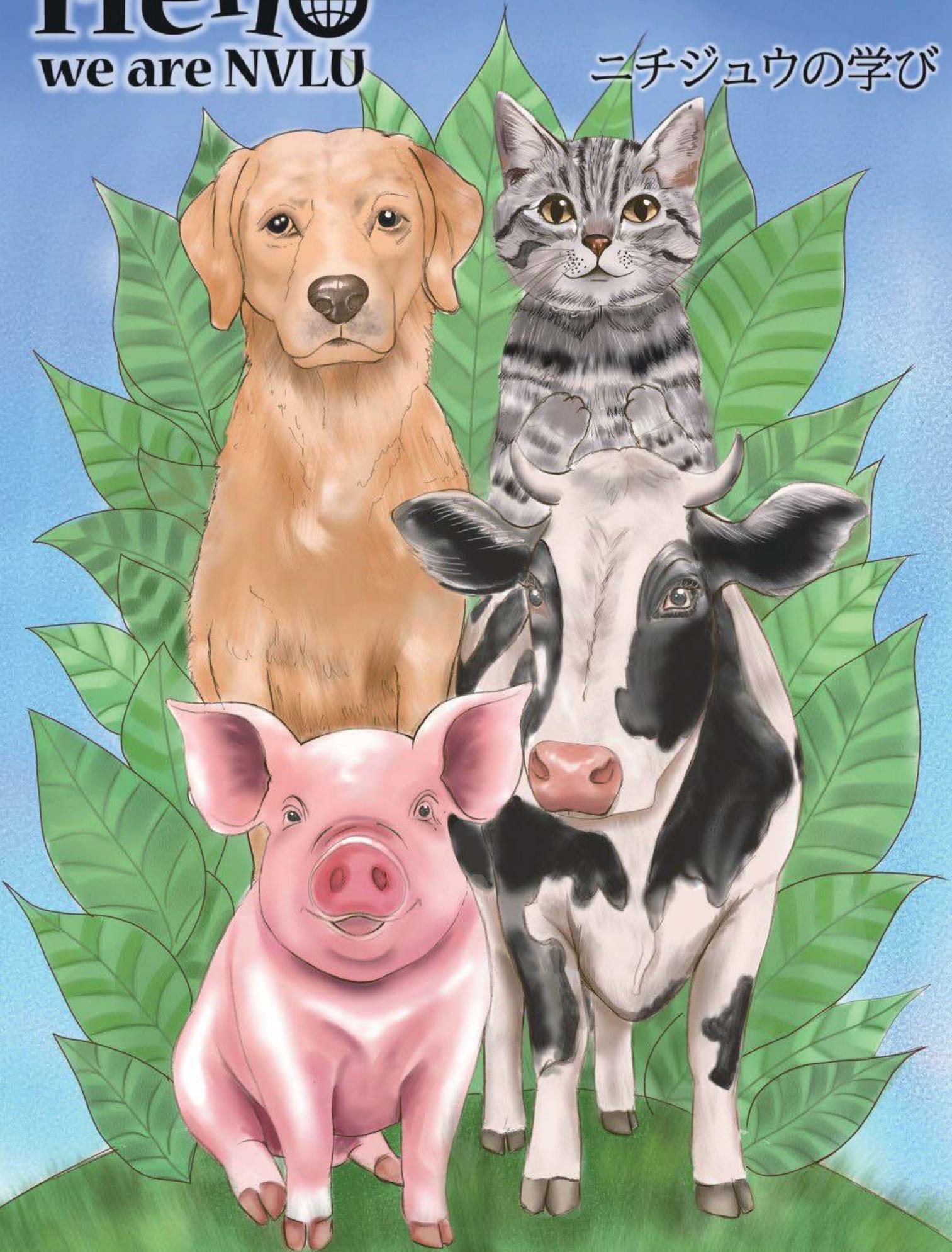


Hello 
we are NVLU

ニチジュウの学び





全学教育センター運営委員会委員

- P4 【特集1】
令和7年新設！全学教育センターが目指すもの
・全学教育センターの組織と教員
・全学教育センター教員を中心とした教育・学習方法等改善プログラム 他

- P10 【特集2】講義カタログ—各学科の講義を特集

- P12 【特集3】食品科学科 開発商品
・新コンビーフ チーズケーキ 獺祭 ブラウンチーズ 麴菌チーズ

- P14 【連載】スペシャリストの道
・学生編 食品科学科 松村風紗
・卒業生編 獣医保健看護学科 NPO団体(オーストラリア) 清水優那(2013年3月獣医保健看護学科卒業)

- P16 【連載】博物館日誌

- P18 【News Topics】ニチジュウCAMPUS NOW・データで読み解くニチジュウ

- P20 Congratulations on the AWARD!! 梅野信吉賞/紫雲賞

- P22 【連載】新任教員紹介

CONTENTS

Hello

we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを一言で表すと「Hello」。

獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界にHelloと呼びかける必要があるのです。



全学教育センターが目指すもの

本学は本年度より「全学教育センター」を新たに設置しました。本センターでは、これまで学科ごとに実施されてきた共通科目を本学独自の基盤教育として統合するとともに、学科横断的に設置されている教職課程や学芸員課程を一体的に統括し、全学的な視点から教育の質を高めることを目的としています。すなわち、専門教育の枠を超え、学生一人ひとりの人間的成長と社会的実践力を育み、「専門+α」の力を涵養することを目指します。

基盤スキルの強化とグローバル課題への対応

本学は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師、専門職、研究者の育成」という教育理念を掲げ、獣医学、獣医保健看護学、動物科学、食品科学の各分野において、高度な専門教育を通じて多くの優れた人材を輩出してきました。さらに、単なる専門知識の修得にとどまらず、学是「敬讓相和」が示すように、謙讓と協調、慈愛と人倫を備えた科学者として、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。近年、価値観が多様化するとともに、大学には留学生などの様々な背景を持つ学生が入学してきます。そのため、全学教育センターの基盤教育部門で「心の教育」を体系的に担い、各学科と連携しながら、学年を超えて「敬讓相和」や「愛と科学の心」を涵養する体制を構築していく予定です。

急激な技術革新が進む一方で、気候変動、感染症の流行、資源の枯渇などの多様な課題が山積する現代社会では、ワンのヘルスの理念に沿って、多様性を尊重し、持続可能な共生社会を実現することが求められています。本学の専門分野はその様な課題に取り組むものであり、人と動物の関係、自然との共生、社会との接続といった多面的な視点と分野横断的な思考や柔軟な発想が重要です。さらに国際社会において、他者と共同して課題を解決していくためには、「敬讓相和」を実践する力、すなわち幅広い教養や倫理観を備えて、英語を中心に自分の考えを表現し、他者と共感的に理解し合う力が必要です。また、AIリテラシーやデータサイエンスの素養を涵養する情報教育を全学科で強化することにより、専門分野をデジタル技術に接続できれば、より実践的で柔軟な問題解決能力の育成に繋がるでしょう。

教職課程・学芸員課程の統括と社会還元

国内に目を向けると、急激な人口減少が大きな問題となっており、一人ひとりの“個の力”を最大限に活かすことが求められています。そのためには、社会と知識をつなぐ教育力や教養力を備えた人材の育成が必要です。本センターでは、学生が専門分野の深い知見を実践的に活用する力や社会に向けて伝える力を育むことを目指します。具体的には、センター内に教職課程および学芸員課程の統括部門を設置し、学生がスムーズかつ体系的に学科横断のカリキュラムを履修できるようにします。教員免許や学芸員資格を併せ持つ専門人材は、専門分野の知識を教育現場や博物館・動物園・科学館といった社会教育の場で活かすことができ、教育普及や科学リテラシーの向上に寄与する貴重な人材となります。こうした人材が、地域社会や次世代における教育活動を担うことで、本学の専門性が社会に還元されることを期待しています。

結びに

全学教育センターは、各学部・学科と緊密に連携しながら、教育の質の向上と学びの持続的な進化を目指します。この取り組みに対する教職員の協力に期待するとともに、本学の学生の皆さんが「敬讓相和」の精神を胸に、「愛と科学の心」をもって社会に貢献できる人材へと成長されることを、心より願っております。

2025年度から全学教育センターが設置されました。全学教育センターは「基盤教育部門」「教職教育部門」「学芸員教育部門」の3つの部門から構成されます。「基盤教育部門」は学問形成に不可欠な基礎・基本的な知識の習得、社会人として必要な幅広い教養の習得、問題解決能力・探求心の開発のほか、学部専門につなげるための知識や能力の習得の充実を目的としています。本学は獣医学科、獣医保健看護学科、動物科学科、食品科学科という4つの専門性を学ぶ学生が在籍しています。この度、大学全体を見渡した基盤教育・教養教育を検討する組織ができることで、各学科における基盤教育のニーズに応えるとともに各学科の学生に対してきめ細かい基盤教育を実施し、高い教養力を身につけた専門スキルを持つ学生を社会に送り出していくことが期待されます。

「教職教育部門」は教育職員免許状を取得するための教職課程の充実を目的としています。本学では中学校・高等学校教諭一種の「理科」か「農業」、あるいは両方の教育職員免許状の取得が可能です。

昨今、特に農業高校の教員不足は深刻であり、本学卒業生の教員就職が大いに期待されています。本学における教職課程は1953年に開講されました。今年で73年目になります。2024年度卒業生までで、延べ270名以上が教育職員免許状を取得しています。2025年度現在、教職課程を履修している学生は6年生(獣医学科)が4名、4年生が9名、3年生が15名、2年生が22名おり、教育職員免許状取得へ向けた学生のニーズが高まっています。全学教育センターでは教職課程教育を一層充実させ専門性を持った教員の育成を進めていきます。

「学芸員教育部門」は学芸員資格を取得するための学芸員課程の充実を目的としています。本学における学芸員課程は2007年度、獣医保健看護学科において初めて開講されました。その後、2010年度から動物科学科でも開講されて現在に至っております。2025年度から食品科学科も加わり、2025年度で開講19年目を迎えます。学芸員課程修了者数を卒業年度で見ると、2024年度卒業までで、受講者通算354名、課程修了者通算322名になりました。2015年には付属博物館(旧ワイルドライフ・ミュージアム)も設置され学芸員課程の博物館実習施設として利用されています。2025年度現在、学芸員課程を履修している学生は4年生が21名、3年生が27名、2年生が42名おり、学生からも高いニーズがあり、学芸員課程の益々の充実が望まれます。

こうした背景のもと2025年度より全学教育センターが設置されることになりました。本年度は2026年入学者対象に文理分野横断型専門科目(リベラルアーツ教育・STEAM教育)および情報リテラシー(データサイエンス・AI)関連科目の設定について検討しております。本センターの設置により、基盤教育の強化と共に教職課程教育と学芸員課程教育の充実を図っていきます。



日本獣医生命科学大学
学長 鈴木 浩悦

全学教育センター
センター長 濱部 浩一

全学教育センターの組織と教員

各学科の専門教育に加えて、学科に共通する基盤教育、学科横断的に配置されている教職課程や学芸員課程等における教育を充実させるため、これらを統括するセンターを設置し、以下の部門を配置しました。



1 基盤教育部門

現代社会は全ての課題が複雑化し、幅広い統合的知識と的確な判断力及び実行力の上に高度な専門性を発揮できる人材が求められています。本学は獣医学、獣医保健看護学、動物科学、食品科学の専門教育を通して、「愛と科学の心を有する質の高い獣医師、愛玩動物看護師と専門職及び研究者の育成」を目標としていますが、それら専門教育によって醸成され修得される専門的スキルを実社会で運用するには、横断的に多彩な教養教育を学び、一人一人が独自の統合的教養を構築し、それらの専門的スキルを発揮するための基盤とすることが必要です。これを実現するために、現在各学科に分散している教養系科目を統合的に運用し、充実させるための基盤教育部門を配置し、本学の4学科に跨る総合領域、自然・情報科学、人文・社会科学の各分野より選択し修得した教養的知識をもとに、個々人が独自の統合的教養を涵養できる環境を整備しました。



2 教職教育部門

本学では各学科の専門教育と平行して履修可能な教職課程及び学芸員課程を設置しています。これらの課程において充実した教育を実施するため、教職教育部門及び学芸員教育部門を配置し、それぞれの学科の専門教育で得られる知識を教職及び学芸員の実務に生かすことのできるユニークな人材の育成を促進します。



3 学芸員教育部門

全学教育センターは、本学の専任教員と非常勤教員により構成されています。専任教員は基本的にそれぞれの学科に所属していて、センターは兼任で担っています！

センター所属の教員の研究成果を報告するために、紀要を発刊する予定もあります！

皆さんが本学で学習する専門教育で得られる能力を社会に出てから発揮するための基盤となる知識や、専門教育以外の技能である教職および学芸員の資格を目指す教育を一手に扱うセンターです。どうか上手に活用してください。

今年度から館長に就任しました。当館は学芸員課程の実習の場としての役割を担っており、学芸員課程の履修生には当館を活用した実習に参加してもらいます。

全学教育センター長は、学内のいろんな会議に出席して、全学的な教育方針等について意見を述べます。

全学教育センター長 濱部 浩一 教授

- 【主な担当授業】
- ・スポーツ野外活動
- ・スポーツ実技
- ウォーキング
- ダイビング、ゴルフ 他

教務部長 和田 新平 教授

博物館長 神代 浩 事務局長



基盤教育部門長 片山 欣哉 准教授 (獣医学科)

- 【主な担当授業】
- V 化学、化学実習、生体分子化学
- N 化学I
- Z 化学実験
- F 化学実験 他

専門につながる、多様で豊かな学びの基盤づくりを進めます。



- 【主な担当授業】
- Z English Listening
- F Basic English
- Intermediate English
- Comprehensive English
- Advanced English Reading 他

基盤教育部門 松藤 薫子 教授 (食品科学科)



- 【主な担当授業】
- V 比較細胞生物学
- 生物学、獣医発生学
- N 生物学I, II
- Z 生物学実験
- F 生物学実験 他

基盤教育部門 伊豆 弥生 教授 (獣医学科)



- 【主な担当授業】
- V 化学実習
- N 化学実験(教職)
- Z 化学実験
- F 化学実験 他

基盤教育部門 関根 舞 講師 (獣医学科)



基盤教育部門 八木 昌平 准教授 (食品科学科)

- 【主な担当授業】
- N 物理学I, II
- Z 物理学I, II
- F 物理学I, II
- 物理学実験
- 生物物理化学
- 教職 物理学実習 他

実践力を磨くことに重点を置いて、理科・農業科の教員を養成しています。

- 【主な担当授業】
- 教職 教職論
- 教職実践演習
- N Reading English I, II
- Z English Listening
- F Intermediate English 他

教職教育部門長 鴫崎 敏彦 教授 (動物科学科)



- 【主な担当授業】
- V 心理学、動物心理学
- 比較発達心理学実習
- N 心理学、動物心理学
- Z 心理学
- F 心理学 他

- 【主な担当授業】
- V 心理学、動物心理学
- 比較発達心理学実習
- N 心理学、動物心理学
- Z 心理学
- F 心理学 他

教職教育部門 野瀬 出 准教授 (獣医学科)



- 【主な担当授業】
- 教職 教職実践演習
- V 生物学実習
- Z 生物学実験
- F 生物学実験 他

教職教育部門 濱野 佐代子 教授 (獣医学科)



学芸員課程の履修がスムーズに進むように担当の先生方と学生の仲介役として頑張ります。

教職教育部門 畠山 仁 講師 (獣医学科)



学芸員部門 山本 俊昭 教授 (獣医保健看護学科)



- 【主な担当授業】
- 学芸員 博物館実習
- N 野生動物学
- 野生動物学実習
- 動物生態学 他

学芸員部門 山本 昌美 教授 (獣医保健看護学科)



- 【主な担当授業】
- 学芸員 博物館実習
- N 動物形態学
- 動物形態学実習
- 動物病理学 他

学芸員部門 知久 和寛 准教授 (食品科学科)



- 【主な担当授業】
- 学芸員 博物館実習
- F 食品安全学
- 食品安全学実験
- HACCAPシステム論 他

学芸員部門長 有村 裕 教授 (動物科学科)



- 【主な担当授業】
- 学芸員 博物館実習
- Z 食料・農業・農村調査実習
- 食料自然動物共生学演習
- 農業資源経済学 他

学芸員部門 桑原 考史 准教授 (動物科学科)

- V 獣医学科
- N 獣医保健看護学科
- Z 動物科学科
- F 食品科学科

全学教育センター専任教員紹介

全学教育センター教員を中心とした 教育・学習方法等改善プログラム

「教育・学習方法等改善プログラム」とは??

教育・学習方法等の改善に関する主体的な取組みを行う教員又は組織を支援することにより、教員及び組織の教育力の向上を図り、ニチジュウの教育改革を推進するプログラムです。今回は、令和7年度のこのプログラムで採択された取組みについて取材しました!

留年抑制を目的とした教育支援システム開発 ～初年次教育データからの進級予測と個別化教育～



取組みの目的は…

1年次の前期で履修する科目の成績データや行動特定診断や性格診断を取り入れて、留年リスクを予測し、1年次11月の段階で早期の個別面談や学修支援プログラムを通じて、学生ごとの特性に応じた適切な教育支援を実施し、留年・休学リスクを抱えた学生の学習行動の改善と進級率の向上を図ることを目的とします。

どんな調査を行うのでしょうか??

この取組みを始めるにあたり、2017年～2023年に入学した獣医学科の学生575名を対象に、統計解析を予備調査として実施しました。解析の結果、進級時にいずれかの学年で留年又は休学した学生と、ストレートに進級した学生のグループに分けて、成績評価等のデータで判別分析をしたところ、進級判定に寄与した主な要因が既にわかっています。

成績データだけでも1年次11月にはある程度の留年・休学リスクの予測ができることがわかりましたが、さらに行動特性診断や性格診断を活用して、統計的に留年と関連する因子を抽出することで、より精度の高いリスク判定を目指します。

留年リスクが高いと判別された学生には、個別面談や学修支援などのサポートを厚くしていきたいです。このサポートについてもどんなものがその学生にとって一番良いのか、行動特定診断や性格診断を利用して検討し、適したサービスを提供していく予定です。

まずは、獣医学科から

獣医学科で始めて、汎用性があるようならぜひ他の3学科でも利用できるようにしていきたいです。最終的にこの取組みによって、留年・休学する学生が減っていくことを期待しています!

この事業に参加する先生方は?

左から、獣医学科(比較発達心理学研究室)・全学教育センターの野瀬出准教授、獣医学科(比較細胞生物学研究室)・全学教育センターの畠山仁講師、この取組みの代表者である獣医学科(生体分子化学研究室)・全学教育センターの片山欣哉准教授、獣医学科(獣医解剖学研究室)の大塚裕忠准教授です!



野瀬出 准教授

畠山仁 講師

片山欣哉 准教授

大塚裕忠 准教授

ニチジュウで、憧れの、 教員になろう!

～教職課程履修の流れ～



教職教育部門長
嶋崎 敏彦 教授

「理科や農業の楽しさ、奥深さ、そして有用性を中学生や高校生にぜひ伝えたい」という意欲と情熱を持った学生に教職課程を履修して欲しいと思っています。本学の教職課程では、実践力を磨くことに重点を置いています。教員免許取得の最終関門である教育実習を実りあるものにするために、様々な授業で発表やスピーチなど、人前で話す訓練を取り入れています。また、履修者全員が50分の模擬授業を経験する機会も設けています。

【2年次 4月】教職課程受講申込

中学(理科)・高等学校(理科)・高等学校(農業)の免許状取得を目指す学生は、土曜日に開講する教職課程の科目の単位取得が必要です。2年次4月に申込を行い、受講料を支払います。
※ 受講料について
申込時に40,000円、その他実習等で費用が生じます。

【3年次】介護等体験実習

中学(理科)の免許状取得を目指す学生は、社会福祉施設に5日間、立川ろう学校に2日間の計7日間介護等体験実習を行います。

【4年次 5-6月】教育実習

2週間～3週間、中学又は高等学校で教育実習を行います。※多くの学生は母校で実施。3年次の春には、各自母校を訪問し、内諾を得ます。



【1年次 4月】教職課程ガイダンス

教職課程科目の履修は2年次からですが、所属の学科によっては1年次で特定の科目の履修が必要なため、ガイダンスを開催しています。※詳細については教務課にてご確認ください。

【2年次～】 教職課程科目の履修

※ 中学校・高等学校教員になるには…
公立学校教員採用候補者選考試験や各私立学校への就職活動が必要です。

【4年次 3月】 教職免許状交付

学位記授与式において、教育職員免許状を交付。

◆ 近年の教育職員免許状取得状況



東京都立中学校勤務
赤石 幸さん
2018年3月食品科学科卒業

最初から教員になると決めていた私が本学を選んだ理由は、高校生の時に受けた奈良井朝子先生(農産食品学教室)の出張授業が面白かったからです。教員になることが目的だと教育学部の方が有利かもしれませんが、でも私は理科の専門性が高い本学で学べて良かったと思っています!生徒たちに「先生はきのこの研究をしていたんだよ」という、興味を持ってくれるんですよ。

学生時代は楽しい記憶しかありません!平日の授業や実習に加えて土曜日は教職の授業、アルバイト(多い時は2つ)、部活動のある生活はなかなか大変でしたが、「絶対に教員になる!」という強い気持ちで乗り切っていました。私の大学生活は楽しかった記憶しかないの、教員を目指している皆さん、そして在学生の皆さんも大学生活をぜひ楽しんでください!(本学食品科学科HP「卒業生からのレポート」より転載)

◆ 近年の教育職員免許状取得状況

	教科	学 科	2022年度	2023年度	2024年度
中学校教諭 一種免許状	理科	獣医学科	0人	0人	0人
		獣医保健看護学科	0人	2人	1人
		動物科学科	4人	7人	1人
		食品科学科	2人	2人	3人
		合計	6人	11人	5人
高等学校教諭 一種免許状	理科	獣医学科	0人	0人	0人
		獣医保健看護学科	0人	2人	1人
		動物科学科	4人	8人	1人
		食品科学科	2人	2人	3人
		合計	6人	12人	5人
高等学校教諭 一種免許状	農業	獣医学科	0人	0人	0人
		動物科学科	4人	5人	3人
		食品科学科	0人	2人	2人
		合計	4人	7人	5人

教職だけでなく、学芸員課程もあります!

2025年からは食品科学科でも開講します★

学芸員課程は2007年度獣医保健看護学科で開講。2010年度から動物科学科、本年度から食品科学科も加わり19年目を迎えます。学芸員課程修了者数は通算322名! 付属博物館での実習の記事は16ページへ

◆ 近年の学芸員課程修了者状況

学 科	2022年度	2023年度	2024年度
獣医保健看護学科	1人	20人	14人
動物科学科	8人	19人	14人
合計	9人	39人	28人

付属博物館
学芸員 石井 さん



講義カタログ

各学科の講義をご紹介します

獣医学科 動物心理学

履修年次：1年次
担当教員：濱野教授・野瀬准教授

動物心理学では、動物の行動や心理について、心理学の研究知見に基づいて、科学的に理解することを目的としています。学習・認知・感情・社会性などの多様な側面を扱います。動物種に共通のメカニズムや動物種の特異性についても探索します。

本講義では、動物の知能や擬人化をはじめ、ボディランゲージ、表情、音声、言語研究の視点からコミュニケーションについて学びます。

自己認知、社会集団、利他行動、他者の意図や感情を推測する「心の理論」といった社会性についても学び、さらには犬の社会的認知能力を概説したうえで、人のために働く犬(盲導犬、聴導犬、介助犬、警察犬など)についても学びます。

その他には、犬や猫などペットの行動特性や問題行動の背景を理解し、改善に向けた方法を検討します。

また、動物虐待の心理的・社会的メカニズムやその予防法、動物福祉に関する科学的視点と倫理的課題についても扱います。

これから、人と動物がより良く共生するための知識と視野を広げます。



学生Interview

—難しいと感じたことはありますか？

動物の行動の背景には様々な心理的要因があり、遺伝的特性や環境、経験などがどの様に関わって行動に結びつくのかを理解することは難しく感じましたが、実際の事例を通して理解を少しずつ深めることが出来たと思います。

—印象に残っていることはありますか？

各動物種の持つ性格や行動特性と遺伝的要因についての内容が印象的でした。例えば社会性や気性の違い、実際特定の犬種が警察犬として適しているとされているなど、動物種間での遺伝的違いが性格や行動特性として明確に現れる点が興味深かったです。

—未来にこの講義を受ける方へ一言お願いします！

この講義では、動物の心理とその行動や性格との関連性だけでなく、そこから人と動物の関係やそのメリットや問題点についても幅広く学ぶことができ、今後の動物と人、社会との繋がりについて考えを深めることのできる講義です。

獣医学科
茂木 亜衣莉さん

動物科学科 農業資源経済学

履修年次：2年次
担当教員：桑原准教授

多くの図表からデータを読み解き、国内における農畜産業、食料消費の現状について把握し、それを踏まえ、どう行動していくか、どう問題解決をしていくかを考えることを目的としています。

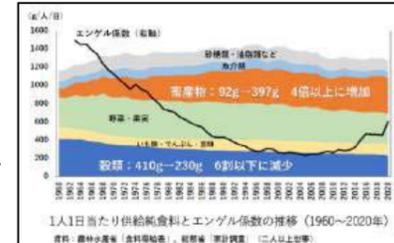
この講義は、「食」「価格」「環境」「資源」の大きく4つのテーマにわけて、農畜産業、食料消費の現状と変化について学んでいきます。

「食」： お米や畜産物の消費が、60年前からどう変化してきたかを学びます。私達が毎日何気なく選んでいる「食生活」は当たり前ではなく、歴史的に形作られたものなのです。

「価格」： お米の価格高騰などの現状を踏まえて「なぜ価格高騰が続いているの?」「そもそも農畜産物の価格はどう決まっているの?」といった点を学びます。

「環境」： 野生動物と農業の関わりを学びます。野生動物による農作物被害をどう克服するか、希少な動物の保全と農業生産をどう両立させるかを考えます。

「資源」： 外国人労働者の増加といった農業労働力の動向や、農地の利用と確保の展望を学びます。



▲多くの図表を用いて、情報収集スキルの習得や図表を読み解く力も養います。

60年前：低価格でカロリーを満たすことを目的として穀物(米)を多く消費
現在：所得が上がるにつれて“美味しいもの”を求めて、畜産物(肉)の消費が増加。経済発展し、豊かになっていくと食生活が変化していくことが読み取れます。

学生Interview

—難しいと感じたことはありますか？

レポートで自分の意見を出さなければならなかったことです。確実な正解がないため、自分なりにメリットやデメリット、世界情勢の変化等にどう左右されるのかを試行錯誤して取り組みました。

—印象に残っていることはありますか？

印象に残っているのは、食料生産に関わる社会問題の話題です。今まではなんとなく「良くない状況にある」くらいに思っていたことに関して、何が良くないのかははっきり知ることができたのは良い経験だったと感じています。

—未来にこの講義を受ける方へ一言お願いします！

この講義では食料生産に関わる社会問題に関しても知ることができ、テレビ等で聞く良くないニュースをただ聞きっぱなしにするのではなく、「どう解決するべきなのか」という部分まで考えられる機会が得られるのは、他の講義にはない魅力だと考えています。

動物科学科
黒田 智晃さん

獣医保健看護学科 動物医療コミュニケーション

履修年次：3年次
担当教員：小田准教授・秋山助教

本科目は、将来獣医療に携わる愛玩動物看護師として、動物看護の専門性をより発揮できるよう、臨床現場で必要とされるコミュニケーションスキルを学ぶことを目的としています。授業内では、症例に合わせた対応についてグループワーク(以下、GW)を行いながら検討します。飼い主の家族である動物の生死や、プライバシーに関わることなどにも向き合い、さらには飼い主の考え方や性格も様々であるため、多角的な面から物事を考えて対応することが求められます。

昨今、獣医療者と飼い主間の良好な関係を構築するため、愛玩動物看護師は飼い主の気持ちに配慮し、耳を傾け、飼い主の自由な発言を導けるようなコミュニケーションを心掛けることが理想とされています。GWでは、1グループあたり3~4名で飼い主役、愛玩動物看護師役、観察・評価者に分かれ、動物病院に来院した飼い主に対する獣医療面接のロールプレイングを行います。飼い主役には難しい人やお話好きな人などの性格を設定し、演じてもらいます。そのようなキャラクターに富んだ飼い主に対して、愛玩動物看護師はいかに信頼関係を築きつつ、うまく話を聞き出せるかを実践的に学びます。ロールプレイング後は、自己評価とグループ内で良かった点・改善点を話し合い、お互いにフィードバックします。日常生活ではなかなか意識しないコミュニケーションスキルですが、GWを行うことで表情や声のトーン、間の取り方、身振り、言葉選びなどの課題をみつけ、改善に繋がっていきます。本講義を通じて、授業で学んだ基本的なスキルを今後現場で出会う様々な看護動物や飼い主に合わせて発展・応用させながら、よりよい関係の構築に活かしていただければと思います。



▲ロールプレイングの様子



▲授業スライド: 症例

学生Interview

—難しいと感じたことはありますか？

グループワークを行い、愛玩動物看護師はカルテを書きながら飼い主さんの話を聞き、他に気になることを聞き出すことがとても難しく感じました。また話を聴く際にはただ聞くのではなく、相槌をしたり、共感したりなど飼い主さんの感情や思いを受け止める必要もあるため一度に多くのことが求められると感じました。

—印象に残っていることはありますか？

グループワークで役割分担をして実際に取り組んだことが印象的でした。自分の対応を客観的に見てもらうことができ、グループワークの最後に各役のどのようなところが大変だったか話し合いましたが特に愛玩動物看護師役の話を聞いて、今後自分が動物病院で働くときにどのようなことが大変で何に気を付けなければいけないのかを知ることができました。

—未来にこの講義を受ける方へ一言お願いします！

この講義では、愛玩動物看護師としてどのようなコミュニケーションスキルが重要かをグループワークを通してより深く学ぶため、実際の現場で役立つスキルを身に付けることができますよ！

獣医保健看護学科
長濱 莉衣さん

食品科学科 HACCPシステム論

履修年次：3年次
担当教員：知久准教授

2025年度より新たに開講された「HACCPシステム論」は、食品の安全管理を国際標準に沿って実践的に学ぶ授業です。

本授業では、食品製造現場で不可欠な「HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Points)」に基づく衛生管理手法について、基礎から応用まで体系的に習得します。

この授業では、食品がどのように作られていくのかという「製造の流れ」を学びながら、その中で細菌や化学物質などによるリスク(ハザード)が発生しやすい場所を見つけ出し、どう対策すればよいのかを考える力を身につけます。特に、食品の安全管理における国際的な標準手法である「HACCP(ハサップ)」の考え方と実践方法について、基本から応用まで段階的に学んでいきます。HACCPには「7つの原則」と「12のステップ」がありますが、授業ではそれに沿って、製造工程の図(フローダイアグラム)を作成したり、リスクのあるポイントを見つけ出したり、重要な管理点(CCP)を設定したりと、現場を意識した実践的な演習を行います。さらに、モニタリング(チェック体制)についても考えていきます。

授業は少人数でのグループワークが中心で、毎回、班ごとに演習の結果を発表し合い、先生やクラスメートと意見交換をしながら学びを深めていきます。食品衛生や安全に関する基本的な知識を土台に、「自分で考える力」と「人に伝える力」をバランスよく育てていくことが、この授業の大きな目的です。また、この授業は「HACCP管理者資格」を取得するための要件も満たしているため、資格を取りたいと考えている人にもおすすめです。

学生Interview

—難しいと感じたことはありますか？

いつも受講している座学形式ではなく、アクティブラーニング形式の授業だったため、最初は内容についていくのが大変でした。しかし、発表やチーム内での話し合い、先生や周囲からのアドバイスを通じて、自分の考えを深めることができました。

—印象に残っていることはありますか？

自分たちで考えたハザード分析を完成させることができたのが特に印象に残っています。多くのアドバイスをいただきながら、毎回の授業を通じて内容をブラッシュアップし、より良いものに仕上げることができました。

—これから受講する在校生にメッセージをお願いします！

「HACCP管理者資格の取得」と聞くと難しく感じるかもしれませんが、先生が丁寧に教えてくださるので安心して取り組めました。資格は履歴書にも記載でき、就職活動にも役立つと思います。ぜひ受講してみてください！

食品科学科
丸 知史さん



HACCP管理者資格
認定証

N&F Classic Corned beef

日獣食品科学科 × 北海道チクレンミート

本学食品科学科と北海道「チクレンミート」が丁寧に作り上げた「パウチ型のコンビーフ」が初登場！
大学に伝わる伝統的なレシピと味を再現した製法で作りました。煮汁の旨みをたっぷり閉じ込め「しっとり」「柔らか」な食感が特徴です。このコンビーフは「未利用資源」(煮汁)を活用したいとの思いから誕生しました。

大学で生まれた商品なので
大学ノートイメージした
デザインに！

肉汁をたっぷり閉じ込めた製法なので旨味が強く、しっとり、やわらか。そのままでも美味しくいただけます。

三浦先生 開発！

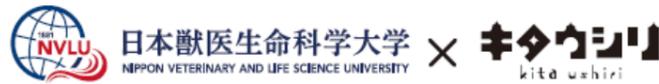


乳肉利用学教室
三浦孝之 准教授



大学カラーに
こだわって話し合い、
決定しました！

赤身牛肉
「キタウシリ」を使用



おすすめレシピ コンビーフ丼

1. ほかほかのご飯の上に
2. 温めたコンビーフを
たっぷりのせて
3. 卵黄をパカッとのせて

完成!!



発酵バター入りコンビーフも
販売しています！



ご購入はこちらから！



オリジナルチーズケーキ

農産食品学教室 奈良井朝子 教授



口開け直後は、二酸化炭素
マイクロ・ナノバブル由来の
炭酸も若干感じられます。
by 小林先生



ブラウンチーズ

乳肉利用学教室 佐藤薫 教授



三浦孝之 准教授

チーズを作る際に、原料乳10kgとした場合、できるチーズはたったの1kg。残りの9kgは、ホエイと呼ばれる水分が出ます。ホエイは、栄養価が高いものの、流通や処理が難しく産業廃棄物として処理されています。この捨てられてしまうホエイに注目し、ホエイを煮詰めて作られたのがブラウンチーズ。「ブラウンチーズ」を日本に定着させることでチーズ工場のSDGsに貢献したいと研究を進めてきました。

国菌といわれる麹菌で熟成
した柔らかく旨味を感じる
チーズです。
by 佐藤先生



麹菌熟成チーズ

乳肉利用学教室 佐藤薫 教授

三浦孝之 准教授

「海外のチーズにはなく、日本独自といえるチーズを創り出そう」という発想でプロジェクトが立ち上がり、麹菌で熟成させた日本初のオリジナルチーズを開発しました。現在、蔵王酪農センターで製造販売しています。



▼本学の中庭で移動販売を行っています！



しっとり食感にほんのリーズ
と柑橘が香ります。むうぶ舎の
移動販売で買えますよ。

by 奈良井先生

本学科卒業生の就職先の株式会社佐渡乳業の
ゴーダチーズを利用して、三鷹市の社会福祉法人
むうぶ舎中原と一緒に開発しました。

食品科学科の学生と教員がレシピを考案し、
むうぶ舎中原で何度も試作し、完成しました。



獺祭早田

食品工学教室 小林史幸 准教授

旭酒造株式会社(2025年6月1日から株式会社獺祭に
社名変更)と共同研究を行い開発した日本酒。加圧二酸化
炭素とマイクロ・ナノバブル技術を使って殺菌・加工した
世界初の製品です。従来の方法では日本酒に熱をかけて
殺菌するので、熱の影響を受けた風味になっていましたが、
この技術を用いて殺菌することで日本酒本来のフレッシュ
な風味を味わうことができます。



砂糖不使用なのに、キャラメ
ルやチョコレートのよう
に甘くて美味しい乳製品です。
by 三浦先生





「好きだからこそ、深く学ぶ。そして広く学ぶ」 コーヒー技術開発者

食品科学科4年次

松村 凧紗 Nagisa Matsumura

——取材場所に行くと、コーヒーを淹れる道具がずらり！自前のサイフォンで淹れてくれたコーヒーを飲みながら、コーヒー愛をたっぷり語っていただきました！

——コーヒーに興味を持ったのはいつ頃からですか？

コーヒー好きな両親の影響から、最初は家にあったドリップコーヒーマシンで父の代わりに淹れるようになったのが始まりでした。その後、父が買ってくれたデロンギのエスプレッソマシンをきっかけに、エスプレッソやテアートといった文化、さらには「バリスタ」という職業の存在を知りました。そこから一気にコーヒーの世界にのめり込み、バリスタを目指すようになりました。

——コーヒーのどんなところが好きですか？

コーヒーが好きな理由は、「興味が尽きない、沢山の魅力を持っているところ」です。味や香りといった食品科学的な面はもちろん、クロロゲン酸やカフェインといった機能性成分、植物としての観点、さらには歴史や文化、そしてバリスタという職業を含む「コーヒーを取り巻く人々」の姿にも惹かれます。ひとつの飲み物にこれほど多くの視点が交錯するところが、コーヒーの最大の魅力だと感じています。

——コーヒーに関する研究をするために日獣に入学したとお聞きしました。

1年次から研究室に所属できる「早期ゼミ制度」と「コーヒーの殺菌の研究」ができる日獣に魅力を感じ、入学しました。自分の「好き」を研究に活かせる環境と、実践的なスキルが早期から身につけられる教育体制は、日獣ならではの大きな魅力だと感じています。

——「コーヒーの殺菌の研究」をしているんですか？

食品工学教室に所属し、二酸化炭素マイクロバブルを用いたコーヒーの殺菌と香り成分の変化について研究しています。この技術は、現在日本酒でのみ使用されており、加熱殺菌における加熱時間を短縮して殺菌することができ、風味を守ることが可能です。コーヒーに応用することで、より美味しく、香り豊かなコーヒーを製造することを目指しています。

——就職先もコーヒーに関わる仕事ですか？

コーヒーへの深い知見と最先端の製造技術を持つ大手コーヒーメーカーの製造職に内定をいただきました。

様々な角度からコーヒーを学ぶ中で、「缶コーヒー」という存在に強い関心を抱くようになりました。どこでも手軽に楽しめる缶コーヒーは、最も身近なコーヒーのひとつです。しかし、食品科学の視点から味や香り、加熱殺菌の過程について学ぶうちに、現在の缶コーヒーに進化の余地があると感じるようになりました。特に、加熱殺菌によって損なわれてしまう繊細な香り成分や、いわゆる「加熱臭」と呼ばれる缶コーヒー特有の風味には、品質向上のための課題が残されています。私は、これらの課題に真正面から向き合い、香り豊かでさらに美味しい缶コーヒーを開発することを目指しています。

——スペシャリストを目指す上で大切にしていることはありますか？

「学びに無駄はない」という考え方です。一見するとコーヒーとは関係のなさそうな内容でも、知識や経験が巡り巡って、思わぬ形でコーヒーに繋がることは少なくありません。

私は趣味が多く、コーヒー以外にも様々な分野に興味を持ち、積極的に学んできました。その中でも、車やバイク、登山、キャンプといったアウトドア系の趣味を通して、「コーヒーが生活の中でどのような役割を果たしているか」に気づくことができました。例えば、ツーリングの後に缶コーヒーで一息つく。それは、ただの飲み物以上の「文化」であり、多くの人にとっての癒しの時間になっていることを実感しました。また、登山では、山頂やキャンプ場で飲む「ご褒美コーヒー」が特別な体験となり、コーヒーがもたらす感動の力を改めて感じました。こうした趣味を通じた体験が、コーヒーが持つ「美味しさ」以上の価値、すなわち場面や気持ちに寄り添う存在であるということに気づかせてくれました。

THE ROAD TO SPECIALIST スペシャリストへの道

学生編
——スペシャリストを目指す学生へメッセージをお願いします！

「好きだからこそ、深く学ぶ。そして広く学ぶ」。社会人になってからもこの姿勢を大切に日々成長していきたいと思っています。

——スペシャリストを目指す学生へメッセージをお願いします！

「好きこそ物の上手なれ」という言葉がありますが、極めることに情熱を注ぐのは、その道を愛しているからこそだと思います。私はコーヒーを信じて、生きてきましたが、何度も「本当にこれで良いのだろうか」と不安に感じることもありましたが、それでも、初心を思い返し、なぜ好きになったのかを再確認することで、今では迷うことなく進んでいます。道を極める過程で不安や疑問が湧いてくるのは自然なことであり、成長の証でもあります。迷っている時こそ、他人と自分を比べず、自分の信じる道を進んでください。どんなに小さな進歩でも、自分の一步一步が確実に前に進んでいることを信じ、勇気を持って進んでいけば、必ず道が開けていきます。自分を信じ、自分の信念を貫くことは、他の誰にも負けない大きな力を持っています。そしてその信念こそが、あなたを他の誰とも違う存在にしてくれます。あなたが持っているその信念は、誇りに思えるべきものですし、どんな困難にも立ち向かう力となります。

私が想像する「スペシャリスト」という存在には、迷わずに進む力と、絶えず学び続ける姿勢が必要だと考えています。あなたも、きっと自分の信じる道を歩み続けることで、いずれはスペシャリストとなり、最終的には大きな成果を手にする事ができると信じています。

——ありがとうございます！



▲サイフォンでコーヒーを淹れてくれました！

卒業生編

——日本の動物病院で動物看護師として働いた後にオーストラリアに移住し、ソーシャルワーカーとして働いているとお聞きしていますが、どんなお仕事でしょうか。

2018年に渡豪して以来、動物や植物に関する仕事に携わり、2022年にオーストラリアの大学院を卒業しました。Master of Social Workの学位とソーシャルワーカー(社会福祉士)の国家資格を取得した後、南オーストラリア州アデレードにあるNPO団体で勤務し、家庭内暴力の被害者とそのペットに医療や住居の提供、心理的なケアなど、包括的なサポートを行っています。現在は、女性のための緊急避難シェルターに勤務しており、24時間365日、緊急度の高いケースの対応をしています。また、ホームレスや低所得者の方々へ獣医療提供やコミュニティへの参加を促したりする活動にも従事しています。

——ソーシャルワーカーの資格を取得したきっかけは？

幼い頃から動物が好きでしたが、愛犬とのかけがえのない日々や死をきっかけに、人と動物との関係性について深く考えるようになり「どうすれば人間と動物がより豊かな生活を一緒に過ごすことができるのか」を自分の中で追求するようになりました。考えている中で「ペットの幸せ」は「飼い主の幸せ」があってこそだと気づき、ソーシャルワーカーの資格を取得しました。自分はペットと暮らす中で、本当にたくさんの幸せをもらっています。しかしその一方で、貧困や家庭内暴力などが原因で、ペットと一緒に暮らせない人たちもいます。そういった問題を少しでも解決できるように、自分にできることをしていきたいと思っています。

——なぜ海外で学び、働きたいと思いましたか？

日獣に在学中、自分が本当に学びたいと思っていた学問はまだ体系化が進んでおらず、日本で学ぶのは難しいかもしれないと何となく感じとっていました。日本では、「人」と「動物」の2つを切り離して考えることが多いですが、分けて考えられることではないという思いから、自分の信念は海外の考え方と似ていると感じ、海外の大学院に進学を決めました。在学中は動物に関する知識の習得だけでなく、将来的な留学に備えて英語力の向上にも力を入れて取り組みました。2年次にはオーストラリア実習にも参加し、そこで得た経験はすべて今に繋がっているように感じます。

——現在は、「獣医療ソーシャルワーク」という分野において実践と研究についても取り組んでいるとお聞きしました。

この分野は日本ではまだ広く知られていませんが、近年、動物虐待と人への暴力に深い関連性があることが明らかになってきており、これらの課題は別々に取り組むのではなく、One Welfare(人と動物の福祉が繋がっているという考え方)の概念のもと、地域社会と連携しながら、総合的なアプローチで協力して取り組むべきだとされています。ペットと飼い主どちらの福祉も置き去りにされず、獣医療と社会福祉の架け橋になれるように日々奮闘しています。また、飼い主の方々と関わる日々の中で、日本で動物看護師として働いた経験、動物福祉に関する知識が今の現場でも確実に活かされていると感じています。

——働いている中で大変だなと思うことはありますか？
大変だと感じるのは、求められるスキルや知識の幅広さです。飼い主の方々と信頼関係を築くためには、高いコミュニケーション能力・傾聴の姿勢や抱える課題に対して、多角的な視点から適切にアプローチすることが不可欠です。さらに、全てのやりとりが英語で行われるため、語学面でのハードルも高く、難しさを痛感しています。また、貧困や障害、差別、暴力といった社会課題に対しても、積極的に声を上げていかなければなりません。どれだけ支援に尽力しても、飼い主がペットと離れ離れになったり、亡くなってしまったりして、ペットだけが取り残されてしまうような場面に直面することもあり、無力感を感じることも少なくありません。それでも、近年One Welfareが世界的に広まりつつあり、ありがたいことに私たちの活動にも関心を持ってくださる方が増えています。日本の学生の方から直接連絡をいただく場合もあり、自分たちの取り組みの重要性とやりがいを感じています。

——海外と日本との違いを感じることはありますか？

メンタルヘルスへの向き合い方について、日本とオーストラリアで大きな違いがあると感じています。オーストラリアでは、メンタルヘルスの課題に対してとても敏感で、自分自身を大切にするためのセルフケアの重要性が繰り返し強調されます。動物病院においても、動物医療従事者自身のセルフケアや、心理的支援が必要な飼い主のサポートを目的にソーシャルワーカーやカウンセラーが常駐しているケースもあります。獣医師や動物看護師が抱える職業的ストレスにも近年注目が集まっており、こうした支援体制が日本にも広がっていくことを願い、自らも発信していきたいと考えています。



——最後に、在学生へメッセージをお願いします！

みなさんは海外で働いている人にどのようなイメージを持っているでしょうか。きっと、ポジティブで行動力があり、英語が得意で、やりたいことのイメージをしっかりと持っている人。そんな印象を抱く方が多いかもしれません。しかし、私はそのようなキラキラしたイメージのパワーよりも、想像力や内省力、冷静さや、そして自分や周りの環境や時代に常にアンテナを張って情報を集め(自分に都合の良いものだけでなく)、時に俯瞰して物事を見つめられる、そんな止まるエネルギーも大切だと感じています。

寄り道した先に得た経験や出会った誰かからもらった言葉、地道に積み重ねていくことで湧いてくる自信、自分の持つ価値観を振り返ることも必要だと考えています。必ずしも、前に進むだけが前進ではありません。すべての経験は必ずどこかで繋がりが、自分を支えてくれるものになります。お会いしたことがある人も、これからどこかで出会う人も、みなさんの実りある学生生活を心から願っています。

——ありがとうございます！



“動物”と“人”の幸せのために
ソーシャルワーカー(社会福祉士)

NPO団体(オーストラリア)

清水 優那 Yuna Shimizu

日本獣医生命科学大学附属博物館は、一号棟を拠点に様々な活動に取り組んでいます。
2024年12月から2025年5月までの活動の一部を紹介します。

博物館 活動日誌

2024年12月
2025年5月

【活動日誌225】2024年12月12日公開
学芸員課程履修生の見学実習を受け入れています

当館は本学で学芸員課程を履修する学生たちの実習の場としての役割を担っています。11月から12月にかけて、学芸員課程を履修する2年生による学内実習(見学実習)を受け入れました。学生たちには、資料害虫調査用のトラップや、通常は展示せずに保管室で管理している収蔵資料を紹介しました。



収蔵資料(棟札)を紹介する様子

【活動日誌230】2025年1月25日公開
キリン「長次郎」骨格標本を解体しました

長年にわたり一号棟にて展示されていたキリン「長次郎」の骨格標本を解体しました。骨格標本や体を支える金具の劣化を踏まえ、標本の倒壊を防ぐためです。当日は長次郎の周りに脚立を設置して頭と首の骨を回収し、そのほかの骨もパーツごとに分けて回収しました。長年の展示により弱ってしまった骨が破損しないように、また、骨の位置や順番がわからなくならないように、気を配りながら作業を行い、3時間ほどで全工程が終了しました。



頭の骨を取り外す様子

【活動日誌231】2025年2月1日公開
小学生による団体見学を受け入れました

境南小学校に通う2年生の皆さんが大学の見学に来てくださいました。当日は本学庶務課と連携をしながら図書館・食堂・教室といった学内の施設を巡り、最後に博物館を案内しました。展示室に並ぶたくさんの剥製たちを見た児童の皆さんからは、驚きの声が上がっていました。



校名の紹介



TOPICS 1: 当館が「登録博物館」として新規登録されました!

当館は博物館としての登録・指定を受けていない「博物館類似施設」として活動をしていましたが、改正博物館法に基づき東京都教育委員会に登録申請を行い、審査の結果、今年の3月31日付けで「登録博物館」として新規登録されました。武蔵野市内の博物館としては、当館が初の認定となります。



登録博物館であることを示すロゴマーク

TOPICS 2: ミニ展示「長次郎の再出発」開催中!

「長次郎」は上野動物園で生まれ、井の頭自然文化園に引っ越したのち、本学で骨格標本となったキリンです。当館はこれまでに長次郎の歩みを紹介する企画展や関連イベントを開催しており、今年度中にイベントの内容をまとめた書籍が出版される予定となっています。書籍の出版を記念して、長次郎の歩みを振り返るとともに、最新のトピックスを紹介するミニ展示を開催します。

【会期】令和7年6月21日(土)～令和7年11月29日(土)(予定)
【会場】日本獣医生命科学大学附属博物館1階 定期交換展示室
【開館日時】博物館の開館日に準ずる

詳細はこちら



画像出典
東京都編(1944)
『井の頭恩賜公園 自然文化園』(第3版)

【活動日誌239】2025年4月12日公開
2025年度新入生歓迎会に協力しました

今年度の新入生歓迎会において学生主催の「博物館ツアー」が実施されました。学芸員が新入生に向けた解説に協力し、展示内容や見どころを紹介しました。



学芸員による見どころの紹介

【活動日誌242】2025年4月26日公開
キリン「長次郎」に関する講演を行いました

「おむすびハウス三鷹」にて、学芸員がキリン「長次郎」に関する講演を行いました。「おむすびハウス三鷹」は、空き家をリフォームし「人と人とをむすぶ地域の居場所」として活動をしている団体で、今回の講演は団体が主催するイベント「おむすびカルチャー」の一環として行われました。講演では、大学の歴史や博物館の展示内

容を紹介したのち、キリン「長次郎」の名前が判明するまでの経緯や、長次郎の来歴を紹介しました。



【活動日誌245】2025年5月18日公開
2025年度学芸員課程実務実習:
資料の整理

2025年度も学芸員課程の実習に協力しています。4月19日からは3・4年生を対象とした学内実習(実務実習)が始まりました。初回は、博物館資料保存論を担当していただいている非常勤講師の奥田環先生に来ていただき「資料の情報整理と展示の立案」をテーマにご指導いただきました。



【活動日誌247】2025年5月24日公開
国際博物館の日にて特別解説を実施しました

当館が「登録博物館」となったことを記念して、国際博物館の日である5月18日に開催された本学のオープンキャンパスにて特別解説を実施しました。

1つ目の特別解説では学芸員が登録博物館となった経緯を説明するとともに、建物の特徴を紹介しました。2つ目の特別解説では、特別展「NVLU 奄美プロジェクト - 研究・保全・そして未来-」*について、共催者である本学獣医保健看護学科病態病理学研究分野の皆さんに研究の背景や展示の見どころを紹介していただきました。*5月末で会期終了



学芸員による建物(一号棟)の紹介

日本獣医生命科学大学附属博物館 基本情報

【開館日時】 火曜日～土曜日 10:30～17:00
(最終入館および物販は16:30まで)
【休館日】 日曜日・月曜日・祝日、年末年始、大学の定める休日(その他臨時休館あり)
【入館料】 無料
【入館方法】 WEBサイトにて最新情報をご確認ください

※ 開館日程は事前の告知なく変更になる場合があります
※ 2025年5月時点では見学前に事前予約をお願いしていますが、近日中に予約なしでの見学が可能となるよう、調整を進めています



WEBサイト



来館案内

「活動日誌」について

博物館公式Facebookにて、日々の活動をまとめた「活動日誌」を公開しています。2020年10月の公開開始から、これまでに200件を超える日誌を公開しました。このページに掲載した「活動日誌」は、Facebookにて公開した活動日誌に加筆修正を加えた特別版です!

Facebookはこちら





獣医保健看護学科1年次獣医保健看護学体験実習



▲ 2024年1月に竣工した富士セミナーハウスB。



▲ 4人部屋から個室となった寝室。

5月15日～16日の2日間、本学付属牧場富士アニマルファームにて獣医保健看護学体験実習を実施しました。この実習では入学一年目の時期に、牛・馬・山羊・羊などの産業動物の扱いや人と動物とのかわり方について学びます。各班に分かれて、施設見学や牧場作業、搾乳や聴診、乳製品作りと様々な経験をしました。隣接する宿泊施設の富士セミナーハウスAは2022年に宿泊者が快適に過ごせるようにリニューアルし、2024年1月に富士セミナーハウスBが竣工しました！



▲ ロバの聴診。集中しています。



▲ 牧場作業での餌やり。



▲ みんなで楽しいアイスクリーム作り！

入学式、新入生歓迎会 新入生オリエンテーション

4月7日に令和7年度入学式が行われ、獣医学部202名(獣医学科92名獣医保健看護学科110名)、応用生命科学部186名(動物科学科132名、食品科学科54名)、大学院18名を無事に迎えることができました。新入生の皆さんが希望に満ちた学生生活を送れるよう祈っています。

新入生オリエンテーションでは、全学教育センターの各部門の教員、学生支援課の職員から大学生活の心構えや諸注意があり、新入生は真剣に説明を聞いていました。新入生歓迎会では、学校探検や部活動・サークル紹介が行われ、各学科にて行う在学生との交流では、お菓子を食べながらボードゲームなどで親睦を深めていました。



▲ 入学式。ご入学おめでとうございます。



▲ 学生生活をサポートする学友会の説明。



▲ ボードゲームで親睦を深めました。



▲ 新入生歓迎会実行委員の学生。



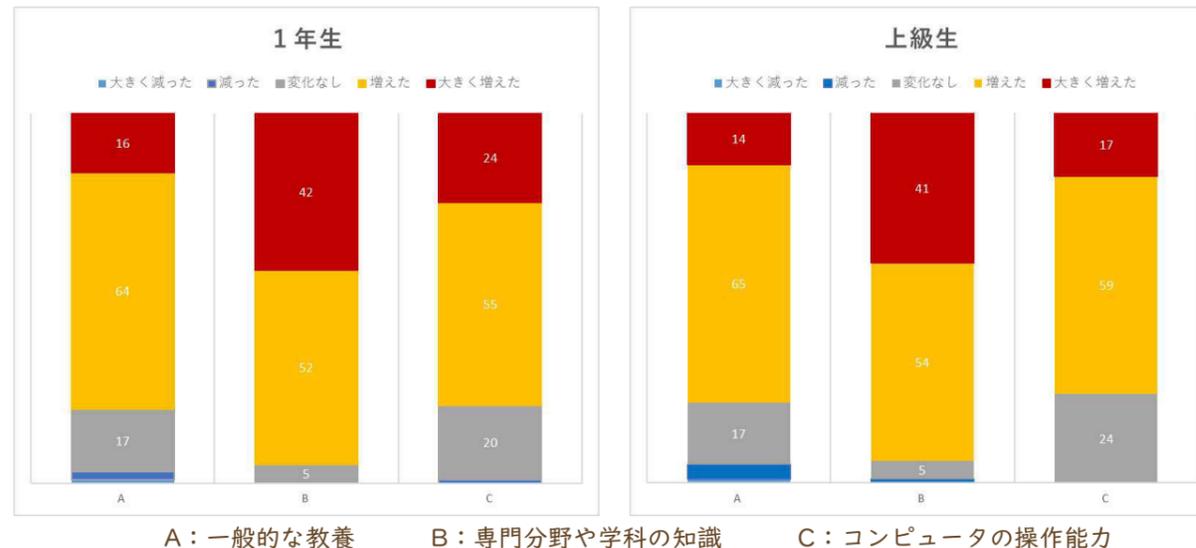
学びの成果、データで証明！



日本獣医生命科学大学では、毎年全学科を対象に学生調査を行っております。この学生調査では、本学学生の学習・生活全般にわたる意識、実態を把握することや、学生支援サービスの向上などを目的としております。それでは2024年度学生調査から、一部データを読み解いていきましょう！



今回ご注目いただきたいのは、「学びの成果」です。一般的な教養、専門分野や学科の知識、コンピュータの操作能力の3つ質問において、大きく増えた、増えた、変化なし、減った、大きく減ったの5つの選択肢で学生に答えてもらいました。こちらのグラフは、各質問の回答結果をパーセンテージで表したものです。



B：専門分野や学科の知識が増えたと感じた学生 約95%



ご覧の通り、どの質問においても、多くの学生が、「大きく増えた」または「増えた」と答えております。「学びの成果を実感している」と答えた学生の割合は、すべての項目で農学系大学を上回る結果となりました。本学での学びが、学生一人ひとりに確かな手応えをもたらしていることがうかがえます。中でも、質問B「専門分野や学科の知識」においては、一年生上級生ともに約95%の学生が学びの成果を感じております。一年生でありながらも、しっかりと専門分野の学習ができていることがわかりますね！また、質問A「一般的な教養」においても学びの成果を感じている学生が多いです。つまり、学生たちは専門的な学びだけでなく、教養まで幅広い分野で学びを増やしていかれたようです。質問C「コンピュータの操作能力」についてですが、大学ではパソコンが主な学習ツールになりますので、その経験が学びにつながったのではないかと考えられます。

速報！令和6年度卒業生就職状況

全学科 **96.4%**

獣医学科 **95.5%** 獣医保健看護学科 **97.8%**
動物科学科 **95.6%** 食品科学科 **95.8%**

令和6年度卒業生の就職率は全ての学科で95%を上回っています。専門のキャリアカウンセラーもいますので積極的に相談に行きましょう！面接練習、ES添削なども一緒に頑張ろう！



梅野信吉賞

日本獣医生命科学大学同窓会の協賛事業で、若手研究者の奨励を目的とし、顕著な業績を挙げ本学の名誉に貢献した教員を表彰します。

Congratulations on the AWARD !!

令和6年度の表彰をご紹介します。受賞者の皆さま、おめでとうございます。

紫雲賞

日本獣医生命科学大学後援会の協賛事業で、本学の学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員及び団体を表彰します。

見えざる多様性を解明する： コクシジウム類の分類学的研究



獣医学科

准教授 常盤 俊大

獣医学部 獣医学科 獣医寄生虫学研究室 常盤俊大 准教授が「見えざる多様性を解明する：コクシジウム類の分類学的研究」にて梅野信吉賞を受賞しました。

—どんな研究でしょうか？

研究対象のコクシジウム類は、アピコンプレックス門に属する寄生性の原生生物（原虫）の一群で、哺乳類だけでなく、鳥類や爬虫類、両生類、魚類などの脊椎動物に寄生します。医学・獣医学上、感染症の病原体として重要ですが、その種の多様性や宿主との相互作用などについては未解明な点が多く残されています。本研究課題では、さまざまな動物に寄生するコクシジウム類について調べ、複数種の新種記載を行うとともに、新亜科・新属の提唱を通じて分類学的な再評価を行い、コクシジウム類の系統分類の精緻化を試みました。

—これからの研究の展望を教えてください！

動物には、それぞれの種に固有のコクシジウム類が寄生すると考えられています。しかし、これまでにコクシジウム類の調査が行われた脊椎動物は、現存する約15,000種のうちわずか1,000種弱にとどまり、そこから記載された原虫は約2,000種にすぎません。近年の推定では、未記載の原虫種がさらにその数十倍から数百倍存在するとされています。さらに、一部の種は宿主に疾患を引き起こすことが知られており、病原体の種を特定するための分類学的研究は、今後の研究において最も基盤的な役割を担うと考えられます。

寄生虫と宿主は、長い進化の過程において共に種分化してきたとされており、原虫の進化のルーツを明らかにすることは、宿主動物の系統関係を探る手がかりとなる可能性も秘めています。いつか、マンモスや恐竜のコプロライト（糞石）からコクシジウムを検出し、現生種のコクシジウムと比較できればと考えています。



▲受賞式の様子



▲表彰状と副賞が贈られました

愛玩動物看護師国家試験 新卒合格率連続100%達成！（第1回及び第2回）



愛玩動物看護師国家試験第1回及び第2回連続新卒合格率100%を達成した獣医学部獣医保健看護学科が紫雲賞を受賞しました。

—合格率100%を達成するためにどんな取り組みをされていましたか。学生のサポート体制等を教えてください。

学科では、愛玩動物看護師資格支援委員会を設置し、受験生のサポートをおこなっています。具体的には、学科専任教員による対策講座、複数回の模擬試験、勉強班の作成と班ごとに教科書・問題集の配布、勉強班での勉強会実施場所の提供などを実施しています。特に第1回に向けては、学生の不安も大きいことが予想されたので、大学のHPに特設サイトを作り、在学生のみならず、卒業生に向けても情報の発信を行いました。対策講座への出席率、模試の成績などを確認し、心配な学生に対しては、支援委員と担任、学生が所属する研究室の教員が協力して、学習面と精神面の両面からのサポートできるようにしています。国家試験の実施が決まってから、以上の取り組み以外にも、卒業研究への取り組みと国試勉強時間の確保の両方ができるよう卒業研究の提出を3ヶ月早くし、そのために研究室配属の時期も前倒しにすることなど、学科教員全員で学生生活の充実と国家試験合格のための対策を考え、話し合い、実施してきました。また、国家試験一月前に実施する最終模試の後に、激励会を開催したことも学生のモチベーション維持に繋がったように思います。2年連続となった100%の合格率は個々の学生が頑張った結果ですが、この学科の取り組みがその下支えになっていたら嬉しく思います。

—どのような愛玩動物看護師が本学から誕生して欲しいですか？

本学は大学院も設置されている4年制大学です。国家試験受験に必要な科目以外にも多岐に渡る選択科目で学びを深めることができ、全員が取得をめざす愛玩動物看護師の国家資格以外にも、教員免許、学芸員資格を取得することも可能で、受験資格ではペット栄養管理士、実験動物技術者、バイオ技術者、任用資格では食品衛生監視員、環境衛生監視員などの資格をとることができます。卒業生達は、愛玩動物看護師として臨床の現場での活躍はもちろん、検疫官などの国家公務員や民間会社での検査技術者、動物園・水族館での飼育員、出版や保険などの動物関連サービス業など、幅広い分野で活躍しています。動物看護師が国家資格になったことで、これまで以上に幅広い分野で可能性が広がったと思います。本学科で4年間学んだことを自信に変えて、愛玩動物看護師の可能性をさらに広げるパイオニアとしていろんなことに挑戦してもらいたいと思います。



▲代表で山本昌美教授（ポストアップ）が受賞しました

これまで…

動物の行動や、動物とヒトの関係、動物の飼育方法（飼育されている動物の生活）に興味を持ち、動物福祉研究の道に進みました。大学院のときはブタを対象として研究を行いました。その後はウシやニワトリといった産業動物、動物園・水族館の動物も研究対象としています。ヒトが動物を飼育している状況での限界はあるかもしれませんが、そのような状況でもより良い動物の暮らし、動物とヒトとの良好な関係性構築について研究しています。

これからの研究について

動物福祉は科学の一分野です。行動学や生理学などの科学的側面から動物を理解し、動物にとってより良い暮らしを提供できるように研究を進めています。本学の富士アニマルファームでは、産業動物における実践的な動物福祉研究を行っていきたく考えています。

動物科学科 動物行動福祉学教室 准教授 戸澤 あきつ

大学生として学ばなければならないこと（＝勉強）もたくさんありますが、息抜きする（＝遊ぶ）ことも動物として必要なことです。ぜひ自分の“ウェルフェア”も大切に、心身ともに充実した大学生活を送ってください。

「動物が好き」

おそらく皆さんと同じなのだと思いますが、私が動物に関わる道を進んできたのは「動物が好き」という気持ちがあったからです。今でもその気持ちは変わりませんし、知れば知るほど奥が深い動物たちは観察をして飽きません。「動物」といえば今は存在しませんが恐竜も好きです。同じ地球にあればほど大きな動物が存在していたかと思うとワクワクします。

これまで…

薬科大学を卒業後、薬剤師免許を取得し、地域の中核病院の薬剤課で3年勤務しまして、前々から関心のあった動物福祉を学びたいと思い、日本獣医生命科学大学に入学しました。

卒業後は、獣医師免許を取得し、東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻の博士課程に進学しました。勉強していく中で、動物福祉の向上のためには、動物虐待という動物に不必要な苦痛を与える違法行為を診断するような学問が獣医学にも必要なのではないかと考えるようになり、大学院では法律に関係する事項を考究し、地域の安全と公衆衛生に貢献する法医学を研究している法医学教室に所属しました。法医学教室では、法医解剖に従事しながら、法医学的手法を用いた動物虐待や死因診断法に関する研究に従事してきました。

博士号取得後は、日本獣医生命科学大学でポスドク、社会連携講座助教を経て、この度、野生動物学研究室・助教に着任いたしました。この間、動物の法医学である法獣医学を日本で確立すべく、溺死診断を目的とする珪藻検査や解剖前死後CT検査の研究を行っています。

好きなこと!

動物全般が好きで、現在は、ネコを飼っています。雑種犬や柴犬を飼っていたこともあります。今は子どもが小さいので、趣味に費やせる時間はほとんどないのですが、ドラえもん等の映画を観たり、公園で遊んだりすることは、良い気分転換になります。また、大学に“学生”として合計で14年間も所属していたので、“学生”が趣味なのかもしれません…!

獣医学科 野生動物学研究室 助教 木原 友子

新任教員紹介

令和7年4月より本学に着任した4名の教員をご紹介します!

獣医学科 生体分子化学研究室 講師 関根 舞

先生方やスタッフのサポートも手厚く素晴らしい環境が整っていて、安心して勉強や研究に取り組むことができます。在学中は、ぜひいろいろなことにチャレンジし、自分の可能性を広げてください!

今までの経歴を教えてください!

幼い頃から動物が好きだったことに加え、生命現象そのものに対する興味から、幅広い知識が習得できる本学の獣医学科へ進学しました。学部在学中に代謝に興味を持ち、生体分子化学研究室に所属しました。代謝を理解するには、それを担う酵素の性質を深く知る必要があると考え、大学院では主にプリン代謝酵素の研究に取り組みました。本学に着任する以前は、他大学の薬学部において、痛風治療薬として使用されている尿酸生成酵素の阻害剤に関する研究を行っていました。

これからの意気込み

動物が好きだった気持ちから始まり、どうして病気になるんだろう、という素朴な疑問が、やがて代謝や酵素機能といった生命の仕組みへの関心につながりました。これまでヒトを対象とした研究を行ってききましたが、今後は様々な動物種で代謝と病気の関係を明らかにする研究を続けていきたいと考えています。学生にわかりやすく伝え、少しずつでも「わかった!」という気づきを積み重ね、一緒に学びを深めていけたら嬉しいです。勉強や研究がみなさんにとって前向きなものになるよう、全力でサポートしていきます。

“食べること”を大切に

パンが好きで、休日は散歩がてら中央線沿線のベーカリーを巡るのが楽しみです。大学の近くにあるパサージュ アニヴェのパンも、学生時代から大好きで、卒業後も時々立ち寄っています。食べることはエネルギー代謝に関わり、心と身体の健康を支えます。学生の時は一人暮らしで、つい食事がおろそかになることもありましたが、食べることを楽しむことを大事にしています。武蔵境には美味しいお店がたくさんあるので、是非散策してみてください。

付属動物医療センター 助教 齊藤 千祥

獣医学生は病院実習で会うことになるかなと思います。わからないことがあれば、ぜひ聞いてください。わかる範囲で答えたいと思っていますし、わからないことについては一緒に勉強したいと思っています。よろしくをお願いします!

これまで…

日本獣医生命科学大学獣医学科を卒業しており、在学中は、臨床繁殖学研究室にて主に雄犬の生殖器疾患について研究していました。

大学卒業後、1年間は1次病院に勤務し、その後付属動物医療センターで研修医として3年間お世話になりました。現在は付属動物医療センターの専従獣医師になり、総合診療科を担当しています。

これからは…

これまでに学んだ知識や経験を生かして、一杯自分にできることをやっていきたいと思っています。また、自分の興味のある分野についてはさらに勉強し、新しい知識をつけていきたいです、日々勉強します。

日々の癒し

犬を2頭飼っています。日々私を癒してくれている大事な存在です。15歳の子はだんだんボケてきてますが、マイペースに過ごしてくれたらなと思っています。8歳になる子はこれからも元気に過ごしてほしいです。



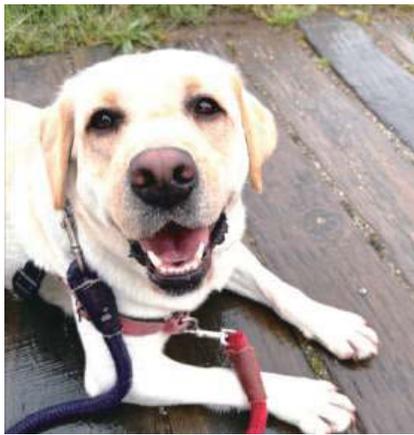
nichistogram

#新しくはじめたこと

Related Hashtags: #投稿してくださった皆さん #ありがとうございます! #またよろしくお願ひします!



inu_30kg



#卒業と新生活 #レアなカメラ目線
#おやつちょうだい

雨の日に新しい公園を探検しました!



Lucky7_Thanks_S2



#ラッキーの妹 #ナナです
#これからよろしくね



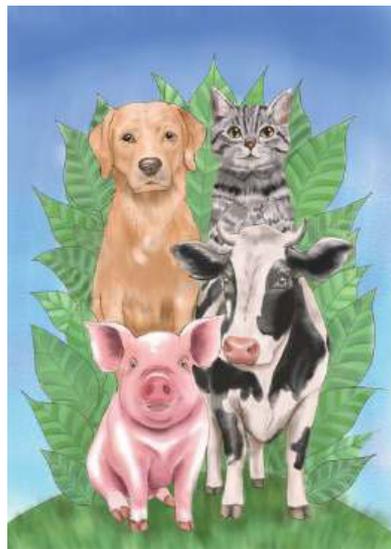
tkfm_oxo



#新玉ねぎ収穫 #九十九里
#お姫様大絶叫

第81号表紙絵

福田 萌 さん(獣医保健看護学科3年)



各学科をイメージさせる、日獣らしいイラストを描きました。ふふっと笑って手に取ってくださるような可愛らしい雰囲気と優しい色味が心がけました。きっとブタさんの笑顔でこの冊子を取って読んでいただけると思っています。

Hello, we are NVLU(ニチジュウ) -日本獣医生命科学大学報-第81号(2025年7月号) 2025年7月10日発行

協力(以下敬称略)/教職員: 鈴木浩悦学長 神代浩事務局長 野瀬出 小田民美 秋山蘭 桑原考史 知久和寛 三浦孝之 奈良井朝子 小林史幸 濱部浩一

佐藤薫 常盤俊大 山本昌美 戸澤あさつ 関根舞 木原友子 齊藤千祥 片山欣哉 伊豆弥生 松藤薫子 鶴崎敏彦 和田新平

山本俊昭 八木昌平 畠山仁 有村裕 大塚裕忠 濱野佐代子

学生: 松村風紗 茂木亜衣莉 長濱莉衣 黒田智晃 丸知史 海老原里美 卒業生: 清水優那 赤石幸

その他協力いただいた皆様ありがとうございました!

表紙/福田萌

編集・発行/日本獣医生命科学大学 入試課:大沼友美 右田麻衣子 成相亮平 堀碧衣 菅原崇文 庶務課:加賀美早紀 博物館:石井奈穂美

印刷/デジタルブレンド株式会社

